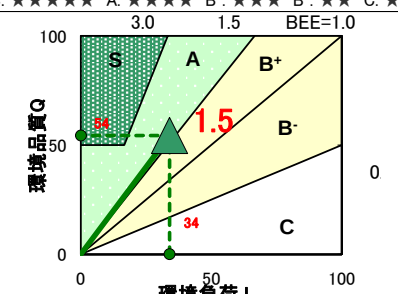


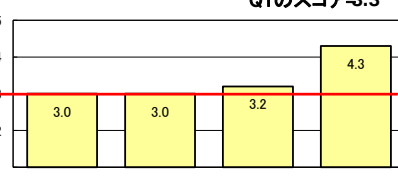
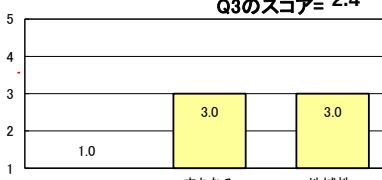
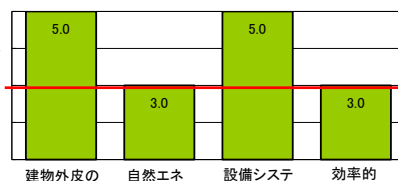
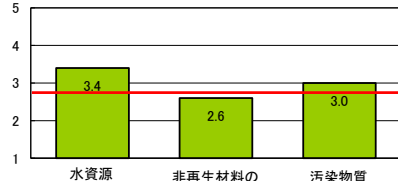
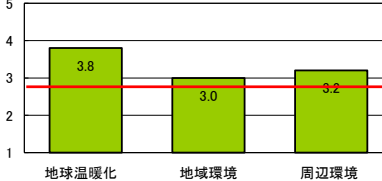
CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版、省エネルギー性能評価システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大同高校体育館	階数	地上2F
建設地	名古屋市南区大同町	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2025年9月5日
敷地面積	10,991 m ²	作成者	
建築面積	3,385 m ²	確認日	2025年9月8日
延床面積	4,033 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★  環境品質 Q 環境負荷 L	標準計算 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 79% 79% 79% 0 46 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア=3.3	Q2のスコア= 3.6	Q3のスコア= 2.4
		
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性	生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア=4.4	LR2のスコア= 2.8	LR3のスコア=3.3
		
建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用	水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
高校の体育館整備事業として、快適性と省エネルギー性を両立する計画とした	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
利用目的に適応した照明・空調換気計画とした	設備部材の高寿命化および更新性に配慮した計画とした	周辺環境に配慮した景観計画および隣地既存校舎との動線計画に配慮した
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
省エネ機器の採用およびLOW-Eガラス採用による負荷低減により、省エネルギー性を高めた。また自然エネルギー活用として、自然通風を積極的に活用できる高窓を計画した	節水機器の採用による省資源を図った	敷地外環境に配慮した、外構照明計画とした。また臭気や煙等でない設備計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

大同高校体育館

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。